

I 実践

1 研究主題

差別や偏見をなくし、ともに助け合い、思いやりの心をもって行動する児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、ふるさとに誇りを持ち、夢に向かって学び合い磨き合う心豊かな久慈っ子の育成であり、めざす児童像は、①元気よくあいさつができる子、②友だちと仲良く活動できる子、③根気強く努力できる子である。児童の実態から、③根気強く努力できる子については「よい傾向にある」と評価できるが、①元気よくあいさつができる子、②友だちと仲良く活動できる子についてはやや劣っていると考えます。

そこで、人権意識についての知識や人権感覚を身につけさせるために、道徳の時間だけでなく、総合的な学習の時間や異学年交流など学校教育全体を通して、差別や偏見を持たない心優しい児童を育てたいと考え本主題を設定した。

(2) 研究内容

ア道徳教育の充実

イ校内人権週間の実践

ウ豊かな体験活動

2 実践内容

(1) 道徳の授業の実践

本校には、特別支援学級（知的・情緒・ことば）が3学級あり在籍児童は10名いる。そして、通常学級にも様々な悩みを抱えている児童がいるので、年度当初の学級作りの時期に、あえて人権教育部と合同という形で、人権に関するビデオの視聴時間を設け、自分を大切にすることと同様に友だちも大切にしようという学習をした。また、「茨城教育の日」がある11月には、全学級道徳の授業の充実を目指し、理解啓発のために地域に公開した。

(2) 人権に関する学習

第1回は6月に行った。1, 2年は、VTR「みんないちばん!」の視聴により、だれでも良いところを持っているから友だちのいいところに気づいたら褒めてあげたいとか、自分の長所は伸ばしていきたいというような感想がえられた。3, 4, 5, 6年は、VTR「名前…それは燃えるいのち」の視聴により、一人一人のいのちの大切さや相手の気持ちになって言動をとることの大切さに気づくことができた。

第2回は9月に行った。夏季職員研修で視聴したVTR「プレゼント」が、長期休み明けの児童にはふさわしい教材であるとの意見があり、全校児童で視聴することとなった。いじめについて考える絶好の資料で、自他の人権を大切にすることを学ぶ学習ができた。

第3回は11月に行った。全校児童で映画「5等になりたい」を視聴した。とても感動的な内容だったので涙を流す児童が見受けられた。

世界人権デーがある12月には、本校でも「ナイスハート週間」（12月6日～12月10日）を設け、児童への意識付けと人権感覚の高揚を図った。なお、3学期も行う予定である。

人権掲示板（ココロちゃんコーナー）の充実のために、人権に関する学習で書いたワークシートや人権メッセージで応募した作品や心温まる詩を掲示したりして児童や保護者の啓発を図った。



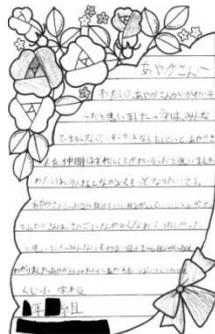
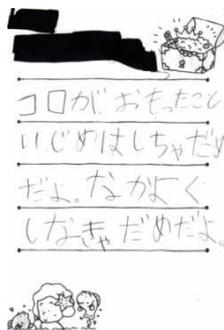
(映画会)



(ナイスハート週間ワークシート)



(人権コーナー)



(人権学習におけるワークシート)

(3) 総合的な学習の中での取り組み

- ア 4年「生き生きサロン・アイマスク・車椅子体験・高齢者体験・手話教室・点字教室」
- 生き生きサロンでは、社会科の学習と関連して昔の生活や遊びなどについて地域のお年寄りから話を聞いたり、実際に昔遊びを一緒に楽しんだりした。
- 車椅子体験・アイマスク体験は、社会福祉協議会やPTA学年委員の協力の下で実施した。車椅子では、児童が2人1組になって障害のある人と介助をする人の体験をした。アイマスクも、同様の方法で行うことで、身体に障害のある人々のつらさを体験することができた。
- 1月下旬の点字教室では、点字道具で自分の名前や物の名前を打ち、手話教室は、手話のサークルを招いて、簡単なあいさつや表現を教えていただくことになっている。



3 成果

- ・人権コーナーの充実化に努めることで、児童も掲示物に目をやる姿が見受けられた。
- ・福祉体験をすることで、相手を思いやることの大切さに気づくことができた。

II 今後の課題

- ・人権週間を必要に応じて設け、児童の人権感覚が育つように指導の継続をしていきたい。
- ・教職員の人権教育に関する研修の充実と家庭や地域への啓発に努めていきたい。